

研究結果報告書

日本統治時代における朝鮮・台湾総督府発行の国語教科書に関する研究

所属：中源大大学校

役職：講師

氏名：宋淑正

本研究は、日本統治下における朝鮮・台湾総督府発行の国語教科書に関する研究として、当時発行された国語教科書の正確なリストを手に入れることが一つの目標だった。詳細には、朝鮮総督府と台湾総督府が発行した官報（府報）を基にその正確な発行状況を調べ、実際に残った資料と比べてその実体に迫ることだった。それにより、日本統治下の朝鮮と台湾における植民地国語教育のイデオロギーを理解したかった。

今回、研究を進めて一番最初にした事は日本統治下の朝鮮と台湾で行われた教育の実状を知ることであった。そのため、朝鮮と台湾の学制を比較した。その結果、朝鮮と台湾は同じ日本統治下にあったにも関わらず、教育の面では相当に差があることが明らかになった。

朝鮮より15年先立って日本統治下に入った台湾では、始めは学校としてよりも国語教習所の役割が強かった。また、中等教育の体系が整ったのも日本統治が始まってから20年が過ぎた1915年の出来事である。それに比べ、朝鮮は開化期から続けられた統監政治により強制併合されて以後、学校が整備され、中等教育が実施されるまで一貫して学校であり続けた。朝鮮では中等教育のための入学難が激しく、補習科が活性化されたのに対し、台湾では留学抑制策のため日本人との共学が朝鮮に比べて先に実施された事が分かる。しかし、この全てが中等教育を抑制するための日本の植民地教育政策であったことが分かった。

一方、国語教育政策に於いては、朝鮮では朝鮮教育令が発布されるごとに各学校の規制と規定が定められ、国語教育に関する具体的な事項を伝えた。しかし、台湾においては、このような規則や規定を定めず、国語教育を実施した。これは、台湾では第2次台湾教育令以後、日本人との共学を認め、1937年からは教科書も統一したため、自治的な国語教育を実施した朝鮮に比べて、台湾総督府が追求する植民地言語政策を広げて行く事が容易だった事に起因する。

その結果、1941年の国語普及率が朝鮮では17.6%に留まっているのに、台湾では57%を越え、ついに1944年にはとうとう71%まで達した。このことから、台湾での国語教育は学制の統一に伴う「同化」政策によって大きな効果をもたらすようになったと解釈できる。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

番号	日時	学会名	論文の題名
1	10月14日	韓国日本語文学会	明治後期国語教科書に表れた仮名表記変化に関する考察
2	11月4日	中央大学日本研究所	明治期読本教科書の仮名字体表記変化に関する考察
3	12月16日	韓国日語日文学会	明治期国語読本の外来語表記に関する考察
4	4月21日	韓国日本語文学会	日本統治下朝鮮と台湾における中等教育用の国語教科書に関する考察
5	5月12日	韓国日本言語文化学会	日本統治下朝鮮と台湾における実業教育用の国語教科書に関する考察

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

番号	題名	発表者	論文掲載誌	掲載時期
1	明治期読本教科書の外来語表記に関する考察	宋淑正	日本語文学第76輯	2018年3月
2	明治期読本教科書の仮名字体表記変化に関する考察	宋淑正	人文社会科学研究	2018年4月

また、今月の24日まで韓国日本文化学会に「日本統治下朝鮮と台湾における実業教育用の国語教科書に関する考察」の題名で論文を投稿しました。また、30日まで韓国日本言語文化学会に「日本統治下朝鮮と台湾における中等教育用の国語教科書に関する考察」の題名で論文を投稿する予定です。これからも日本統治下の朝鮮と台湾における国語教育に関する比較研究をすすめていきたいです。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)